

公立高校・都立高校の入試制度

【目次】

1. 神奈川県公立高校入試について P 1～ 8
2. 東京都立高校入試について P 9～13
3. 国私立高校入試について P 14～20

1. 神奈川県公立高校入試について

(1) 公立入試制度

■ 従来の公立入試制度及び 2024 年度の変更点について

- ① 入試の機会は 1 回のみ。ただし、病欠者のための追検査日がある。倍率を見て志願変更が 1 回可能である。
- ② 全志願者に共通の「学力検査(入試)」を実施する。マークシート方式だが、英語と国語のみ一部記述問題を採用する。1 教科 100 点満点で原則 5 教科 500 点満点。
- ③ 選考は「調査書(内申)」と「学力検査(入試)」で行う。面接は 2024 年度から基本的になくなった。
- ④ 一部の高校で、「特色検査」を実施する。「自己表現検査」は学力向上進学重点校とそのエントリー校で行われる。「実技検査」や「面接」は主に専門コースで行われる。配点は各高校の任意で 100~500 点。
- ⑤ 出願と合格発表はインターネットで行う。学力検査の得点結果と答案の写しは受検校で受け取る。

① 志願変更と学力検査(入試)

- ・志願変更は 1 回のみ可能。
- ・入試は 2 月中旬の「共通選抜」1 回のみ。
- ・病欠者のために約 1 週間後の追検査日を設定。

公立入試カレンダー(2024 年度)

1/24(水)~1/31(火)	出願
2/5(月)~2/7(水)	志願変更
2/14(水)	学力検査(共通選抜)
2/15(木)~2/16(金)	特色検査
2/20(火)	追検査日
2/28(水)	合格発表

② 全志願者に「学力検査(入試)」を実施

- ・学力検査は英数国理社の 5 科目が原則。
- ・1 科目 100 点 \times 5 科目 = 500 点満点。
- ・特色検査を実施する場合は、学力検査を 3 科目まで減じることが可能。

(例) 神奈川総合(舞台芸術科): 英数国と理社から 1 科選択、相模原弥栄(音楽・美術): 英数国 など。

③ 選考方法

- ・2024 年度より、面接は特色検査として一部の専門性の高いコースとクリエイティブコースのみで実施された。
- なお、詳細は毎年 7 月頃に発表される。

■ 選考資料

・A 値: 調査書(内申)

中 2 学年末の内申(45 点満点) + 中 3 の 12 月の内申 \times 2(90 点満点) = 135 点満点。
ただし、高校ごとに 3 科目まで 2 倍以内の重点化が可能。

・B 値: 学力検査(入試)

英数国理社の 1 科目 100 点 \times 5 = 500 点満点。
ただし、高校ごとに 2 科目まで 2 倍以内の重点化が可能。

・C 値: 観点別学習状況

中 3 の 12 月の各科目の観点別評価「主体的に学習に取り組む態度」3 点満点 \times 9 教科 = 27 点満点。観点別評価は A $^{\circ}$ ・A=3 点、B=2 点、C $^{\circ}$ ・C=1 点とする。

・D 値: 特色検査(自己表現検査、実技検査、面接)

自己表現検査は 18 校が 100 点満点の共通問題を利用するが、その他の検査は各高校独自のもので算出方法も異なる。

■ 選考方法

・第1次選考(定員の90%)

調査書(内申)のA値を100点満点に換算した(a)と学力検査(入試)の得点B値を100点満点に換算した(b)を基に、各学校で定めた比率(f、g)に基づき合計数値を算出する。ただし、(f、g)は2以上の整数でf+g=10を満たすように設定する。

$$S_1 = (a \times f) + (b \times g)$$

特色検査を実施した場合は、その結果D値を100点満点に換算した(d)を基に、各学校で定めた比率(i)を乗じた数値を加える。(i)は1以上5以下の整数とする。

$$S_1 = (a \times f) + (b \times g) + (d \times i)$$

・第2次選考(定員の10%)

学力検査(入試)の得点B値を100点満点に換算した(b)と、観点別学習状況のC値を100点満点に換算した(c)を基に、各学校で定めた比率(g、h)に基づき合計数値を算出する。(g、h)はそれぞれ2以上の整数とし、g+h=10を満たすように改めて設定する。

$$S_2 = (b \times g) + (c \times h)$$

特色検査を実施した場合は、上記の式にD値の数値を加算する。計算方法は第一次選考と同じである。

$$S_2 = (b \times g) + (c \times h) + (d \times i)$$

なお、横浜国際の国際バカロレアコースは第2次選考を行わない。

④ 各選考資料の配点割合についてのまとめ

・調査書(内申)135点満点、学力検査(入試)500点満点の場合、高校ごとの比率によって以下ようになる。

■ 第1次選考のS値における調査書(内申)と学力検査(入試)の価値

比率 (内申:入試)	内申1点がS値1,000点満点 に占める割合	入試1点がS値1,000点満点 に占める割合
200:800	1.48点	1.6点
300:700	2.22点	1.4点
400:600	2.95点	1.2点
500:500	3.70点	1.0点
600:400	4.44点	0.8点
700:300	5.19点	0.6点
800:200	5.93点	0.4点

・2024年度における各高校の比率500:500が全体の50%弱と最も多かった。

■ 2024年度の比率例

内申:入試	高校例
300:700	横浜翠嵐・柏陽・横浜SF・神奈川総合(個)・市立桜丘・海老名など
400:600	湘南・横浜緑ヶ丘・川和・多摩・希望ヶ丘・神奈川総合(国・舞)・大和・市立東・住吉など
500:500	横浜平沼・新城・市ヶ尾・相模原弥栄(全科)・市立戸塚(一・音)・生田・港北・元石川・市立みなと総合・鶴見・横浜瀬谷・岸根・橋本・城郷・麻生・霧が丘・川崎北・新栄・旭など
600:400	荏田・二俣川看護福祉(全科)・新羽・白山(美)・商工・永谷など

■ 第2次選考のS値における観点別評価と学力検査(入試)の価値

比率 (観点別評価:入試)	観点別評価1点がS値1,000点 満点に占める割合	入試1点がS値1,000点満点 に占める割合
200:800	7.4点	1.6点
300:700	11.1点	1.4点
400:600	14.8点	1.2点
500:500	18.5点	1.0点
600:400	22.2点	0.8点
700:300	25.9点	0.6点
800:200	29.6点	0.4点

- ・200:800の比率を採用した高校は全体の約70%を超え、800:200を採用した高校はなかった。なお、2次選考では観点別評価の比重が大きいため、入試得点力のみでの逆転が難しくなった。

⑤ 「特色検査」について

- ・特色検査は必要な高校のみが実施する。実技検査と自己表現検査と面接の3種類がある。
- ・実技検査と面接は主に専門コースで実施されて適性が判断される。
- ・自己表現検査は主にトップ校で実施され、情報活用力・論理性・思考力・表現力などをみる。以前は、各高校で独自に問題を作成していたが、2019年度から横浜翠嵐・湘南・柏陽・厚木・希望ヶ丘・横須賀・平塚江南の7校は共通問題と共通選択問題を用いた。2019年度に独自の自己表現検査を実施した高校には、横浜国際の口頭試問、神奈川総合(国際)の集団討論、横浜緑ヶ丘があった。
- ・2020年度より全ての学力向上進学重点校とエントリー校で自己表現検査を実施。新たに川和・多摩・大和・相模原・横浜平沼・光陵・鎌倉・茅ヶ崎北陵・小田原の9校が加わった。2021年度より横浜緑ヶ丘、2022年度より横浜国際が共通問題を採用して、横浜SFと横浜国際のIBのみ独自問題を実施した。

■ 選考資料・選考方法

A値:調査書(内申)、B値:学力検査(入試)に、特色検査の結果としてD値を加算したS値の高い順に合格者を決定する。D値は100~500点満点とし、各高校で設定する。特色検査を実施する高校は、学力検査(入試)を3~5科目から設定する。

■ 自己表現検査の出題内容(2024年度共通問題)

- 共通問題 1:2次元コードに関する英会話文2つを読んで答える(5問)
- 共通問題 2:水資源に関する文章を読んで科目横断的な問題に答える(5問)
- 選択問題 3:富士山と単位に関する文章を読んで科目横断的な問題に答える(7問)
- 選択問題 4:文の表現力、立体図形、16進法などに答える(8問)
- 選択問題 5:天びん、振り子、運動エネルギーなど理数系の問題に答える(6問)
- 選択問題 6:中央アメリカ3国の推測、確率、細胞浸透膜の推測に答える(7問)

- ・2024年度より選択問題は5つから4つになり、各高校が2問選択するようになった。

■ 自己表現検査(共通問題 18 校)の出題一覧(2024 年度)

	問1	問2	問3	問4	問5	問6
横浜翠嵐	●	●			●	●
湘南	●	●	●	●		
柏陽	●	●	●		●	
川和	●	●	●	●		
厚木	●	●			●	●
横浜緑ヶ丘	●	●	●		●	
多摩	●	●	●		●	
希望ヶ丘	●	●	●		●	
大和	●	●	●		●	
相模原	●	●	●	●		
光陵	●	●	●		●	
横須賀	●	●	●		●	
小田原	●	●	●		●	
平塚江南	●	●		●	●	
鎌倉	●	●	●		●	
横浜平沼	●	●	●	●		
茅ヶ崎北陵	●	●	●		●	
横浜国際	●	●	●	●		

■ 実技検査の例(2024 年度)

高校名	特色検査	評価の観点	検査の概要
神奈川総合 舞台芸術科	身体表現 演技表現	<ul style="list-style-type: none"> ・身体を動かす能力 ・表現の創意工夫 ・言葉で伝える能力 	<ul style="list-style-type: none"> ・出願時に与えられた「歩く」「走る」「ジャンプする」などの動作を連続して行う。 ・出願時に与えられた課題文(戯曲または会話の入った文)を声に出して読む。
相模原弥栄 美術科	デッサン	<ul style="list-style-type: none"> ・表現の技術 ・表現の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> 与えられた題材 3 つを鉛筆デッサン(素描)する。 ・鉛筆(2H・H・F・HB・B・2B・3B・4Bの範囲で使用可)を持参する。 ・B4 画用紙は学校で用意する。 ・検査時間は 90 分とする。
相模原弥栄 スポーツ科学科	運動	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的技能 ・応用技能 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎身体運動技能(全受検者共通) 走力、跳力、投力 専門競技運動技能(必修選択) バレー、バスケット、バドミントン、サッカー、陸上競技、剣道、ベースボール型実技、総合運動技能の 8 種目から 1 種目を選択し、技能検査。※ただし、陸上競技は、「短距離走、中・長距離走、ハードル走、跳躍、投てき」から 1 種目を選択する。

(2) 入試制度の傾向と対策

年度や科目によって難易度の変化はあるものの、出題形式に大きな変更はなかった。どの科目にも共通しているのは、他府県の公立入試よりも圧倒的に文字数が多いことと、そこから必要な情報を素早く探し出したうえで知識を組み合わせることで答えることである。以下に入試対策を述べる。

① 学力検査(入試)について

■ 内申重視の高校は入試での逆転が難しい

2023 年度までの入試を例に挙げると、A 値(内申)と B 値(入試)の比率が同じだった川和・市ヶ尾・港北・元石川などでは、内申の 6 点差を入試得点で逆転するのに約 23 点多くする必要があった。特にトップ校である川和の受検者は通常難易度の合格平均点が 430 点前後になるため、さらに 20 点以上多くとろうとすると、正解率 9 割以上の 450 点以上となり、逆転は厳しくなる。トップ校の合格にはまず内申を上げることが重要になってくる。

そのため、300:700 の比率を採用する高校を選択することも一つの手である。また、特色検査の自己表現検査で得点力があるならば、逆転は十分に可能である。相性のよい選択問題が出て、比率が 200 点のトップ校を検討するとよい。

なお、志願変更後の倍率より最終倍率が下がる高校は、一部のトップ校のみである。国私立難関校に一般受験で合格したために、公立入試を辞退することが主な理由である。2024 年度の辞退者が多かった高校は、横浜翠嵐の 33 名だった。逆に、辞退者が少ないトップ校は、横浜緑ヶ丘の 4 名、川和の 11 名、多摩の 13 名、相模原の 2 名、大和の 2 名などである。横浜翠嵐を含めて辞退者が近年減少傾向にあるのは、大学合格実績がさらに伸びたために東京学芸大附属などの国私立難関校よりも魅力を感じたからと思われる。

内申:入試	内申 1 点を入試に換算した点数
200:800	内申 1 点=入試 0.92 点
300:700	内申 1 点=入試 1.58 点
400:600	内申 1 点=入試 2.46 点
500:500	内申 1 点=入試 3.70 点
600:400	内申 1 点=入試 5.55 点
700:300	内申 1 点=入試 8.63 点
800:200	内申 1 点=入試 14.80 点

■ 入試で逆転するには…



Xくん

(A値 108/135 [36/45]、B値 380/500)



Yくん

(A値 102/135 [34/45])



↓ -6 点

- ・A値:B値=200:800 の学校を受検する場合
⇒ 入試で **6 点多く(386/500)**とれば逆転!
- ・A値:B値=300:700 の学校を受検する場合
⇒ 入試で **10 点多く(390/500)**とれば逆転!
- ・A値:B値=400:600 の学校を受検する場合
⇒ 入試で **15 点多く(395/500)**とれば逆転!
- ・A値:B値=500:500 の学校を受検する場合
⇒ 入試で **23 点多く(403/500)**とれば逆転!
- ・A値:B値=600:400 の学校を受検する場合
⇒ 入試で **33 点多く(413/500)**とれば逆転!
- ・A値:B値=700:300 の学校を受検する場合
⇒ 入試で **52 点多く(432/500)**とれば逆転!
- ・A値:B値=800:200 の学校を受検する場合
⇒ 入試で **89 点多く(469/500)**とれば逆転!

■ 2024 年度の出題傾向と今後の対策

学力検査の合格者平均点は年度により異なる。特に 2016 年度から 18 年度にかけては、平均点の上下動が激しい。その理由として挙げられるのは、マークシートの導入と記述問題の大幅な削減である。

このような状況が起きた背景には、2016 年度に起きた採点ミスの問題がある。記述問題は、字数が多くなればなるほど一つの模範解答に集約することが難しい。また、採点する際に基準を設けても、どうしても採点者によって、ズレが生じる。採点ミスを防ぐために合計 5 回ものチェックを行い、それでも疑問点が出るたびに会議を開いて決定したと、ある高校の校長は話してくれた。そのため、記述問題の分量を減らして採点しやすくすることを念頭に問題が作成されたと推察する。

2024 年度は英語と国語の難化が影響して、合格者平均点は前年度より 14.1 点下がった。以下に 2024 年度の出題傾向と対策をまとめる。

■ 合格者平均点の推移

	英語	数学	国語	理科	社会	平均点
2024年度	47.0	55.6	64.0	57.3	54.8	278.7
2023年度	55.3	53.0	75.1	51.0	58.4	292.8
2022年度	52.1	52.9	61.3	58.9	62.4	287.6
2021年度	54.6	58.2	65.7	50.1	72.6	301.2
2020年度	49.4	55.7	69.1	55.9	58.2	288.3
2019年度	49.8	50.3	59.1	61.3	42.5	263.0
2018年度	56.1	56.0	65.6	45.3	41.8	264.8
2017年度	51.9	63.5	73.1	46.9	54.5	289.9
2016年度	43.0	51.7	64.7	46.5	52.0	257.9
2015年度	51.8	52.6	64.4	37.4	50.2	256.4
2014年度	59.6	51.7	60.8	38.6	49.5	260.2

◆英語…難化。昨年度合格者平均より 8.3 点下がって 47.0 点。

- ① 大問 2 の会話文の適語選択では前後の文が難化するだけでなく、選択肢の単語も難しくなった。
- ② 長文問題ではテーマもグリーンインフラや若者の政治参加など社会的な内容で語彙も難化した。
⇒ 文法的な思考力に加えて語彙力が必要。配点の高い長文問題に時間配分が多く割けるようにする。

◆数学…ほぼ変化なし。問 3 以降に約 20 点分の難問がある。

- ① 30 点分は高い思考力を必要としないが、解答までの手順が多いか数値が分数になっている。
- ② 正解率が低いものは、大問 3 (ウ) 3.4%、大問 4 (ウ) 6.0%、大問 6 (ウ) 4.8% だった。
⇒ 大問 1 と大問 2 で満点を狙い、問 3 以降は制限時間内で解くべき問題を取捨選択する訓練が必要。

◆国語…難化。昨年より合格者平均点が 11.1 点下がって 64.0 点。

- ① 大問 3 の論説文テーマや大問 4 の古文内容が捉えづらいものとなり、90 点以上をとるのが難しくなった。
- ② 大問 5 は会話文から二つの文章を読んで要点を記述する形式になった。大学の共通テストに似ている。
⇒ 初見の読解問題を解く基本的な方法や古文の基本知識を身に付けて演習を重ねることが必要。

◆理科…難易度は変化なし。完答問題が細分化されて得点しやすくなり、平均点が 6.3 点上昇。

- ① 正解率 35% を下回る問題は昨年度の 6 問から 2 問に減った。
- ② 長い問題を読んで整理・考察する力は依然として必要とされている。
⇒ 大問 1 から大問 4 までの分野別問題で確実に得点を重ねる基礎知識を身に付ける。加えて、大問 5 以降の単元をまたいだ知識を組み合わせる答えを出す問題は、秋以降の演習と復習が重要。

◆社会…3 年連続で難化。昨年より 3.6 点下がって 54.8 点。

- ① 選択肢 6 択が 8 問、8 択が 6 問に加えて、9 択が 1 問登場した。
- ② 傍線部以外の資料に目を通して、自分の知識から選択肢を絞る思考力が問われる傾向が強まっている。
⇒ 教科書を読んで、細かい部分まで覚え直す。忘れては覚えての繰り返しを年間で行う。さらに、トップ校を狙う生徒は、より難易度の高い他府県の過去問なども使って対策していく。

② 得意科目から高校を選ぶ

■ 重点化を利用する

重点化は学校が求める生徒像を打ち出したものだが、受験生の得意科目と合致するのであれば、受験をより有利にすることができる。

例えば、神奈川総合(個性化)は「学力検査(入試)のうち、点数の高い1教科を2倍」という重点化を行う。仮に右の表のように、内申点と入試得点と同じであっても、得意科目があれば逆転が可能である。

このように、得意科目と受験校の重点化が合致した場合は、有利な受験ができる。学校の校風が自分に合うかどうかも重要だが、ボーダーライン近くならば得意科目を生かせる受験も検討すべきである。

■ 重点化の例(2024年度の入試方法)

神奈川総合[A:B=3:7] 学力検査の高得点1科2倍

・Xくん A:内申点 120/135点、B:学力検査 400/500点

	英	数	国	理	社	計
入試得点	85	70	85	75	85	400/500
重点化	170	70	85	75	85	485/600

⇒S値:832.4P (A値266.6+B値565.8)

・Yくん A:内申点 120/135点、B:学力検査 400/500点

	英	数	国	理	社	計
入試得点	100	70	85	70	75	400/500
重点化	200	70	85	70	75	500/600

⇒S値:849.9P (A値266.6+B値583.3)

17.5Pの逆転!

■ 重点化の例(2024年度)

高校	第1次選考の重点化項目
市ケ尾	調査書:音・美・保体・技・家のうち、点数の高い1教科2倍
市立南	学力検査:英1.5倍
川崎北	2024年度より重点化廃止
大和西	調査書:英2倍
橋本	2024年度より重点化廃止
市立横浜商業(ス)	調査書:保体2倍
市立横浜商業(国)	調査書:英2倍 学力検査:英2倍
川崎市立橘	2024年度より重点化廃止
神奈川総合(個)	学力検査:点数の高い1教科2倍
神奈川総合(国)	学力検査:英2倍
市立東	学力検査:英1.5倍
市立横浜SF	調査書:英・数・理2倍 学力検査:数・理2倍
相模原弥栄(ス)	調査書:保体2倍
相模原弥栄(音)	調査書:音2倍
相模原弥栄(美)	調査書:美2倍
横浜国際	調査書:英2倍 学力検査:英2倍

③ 特色検査

特色検査の自己表現検査は、旧入試制度の前期選抜を踏襲した内容となっている。2024 年度では、横浜サイエンスフロンティア・横浜国際のIBのみ独自問題を実施した。他は共通問題と各校が事前に指定する選択問題からなり、マークシート方式が採用されている。問題の難易度はこの3年大きな差はないが、時間内に全て解くことは難しい。よって、全校共通の大問1と大問2でなるべく多く得点することが重要である。また、各高校が事前に大問2題を指定する選択問題では、解けそうな問題のみを選んで時間をかける必要がある。

この高校ごとの選択問題は、2024 年度で大問3と5に人気が集中していた。大問3は15校で大問5は13校に選ばれた。いずれにしても副教科も含めた幅広い知識を蓄えたいうえで、知識を組み合わせる答えを出していく練習を重ねる必要がある。

一方、相模原弥栄のスポーツ科学科、美術科、音楽科の実技検査も昨年度までの内容と同様である。横浜国際のIBコースでは、100点中50点分の配点で200語以内の英語記述問題が出題される。英検準2級以上で出題される記述問題などで練習を行うとよいだろう。

④ 得点開示について

2016年度の入試において、理科の大問3の(ウ)で正答が2つある出題ミスがあり、受検者全員に3点が加算された。また、88校330人で小問の合計得点などに誤りがあり、本来合格するはずであった2名が不合格となっていた。これを受けて、2015年度の採点に関しても答案を廃棄した3つの高校以外で調査が行われた結果、71校188人に採点ミスが見つかり、2名が不合格とされていた。そのため、2017年度の合格発表から受検者全員に各科目の得点と面接点が資料として配布された。合格発表後に各高校で配布される書類で確認ができる。

⑤ 併願校の選び方

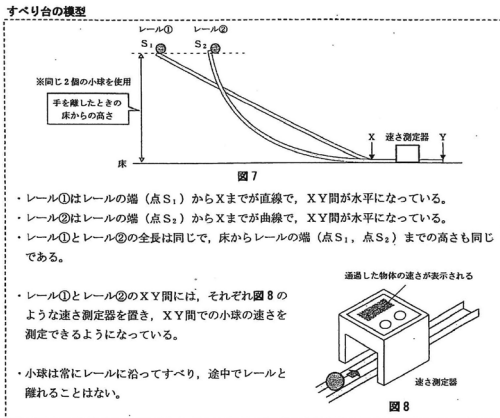
旧入試制度では、日程的に前期選抜の合格者は私立の併願校受験を辞退していた。しかし、2013年度以降は、公立高校が第1希望である生徒のほとんどは私立の併願校を受験することとなる。また、公立の受検回数も一度だけとなってしまったため、今まで以上にきちんとした併願校選びを行う必要がある。

私立高校の中には、大学の附属校など公立高校にはない魅力をもつところが数多くある。したがって、私立高校をただ公立の滑り止めとして受験するのではなく、公立高校と同ランクの私立高校を第2希望校とした受験プランも考えた方がよい。

注: 公立入試は「学力検査」を実施するため、「受験」と表記し、国私立の入試に関しては「受験」と表記しました。

■ 特色検査の例(2024年度選択問題5(ウ)より) すべり台を移動する物体の問題

- (ウ) アンさんは、すべり台の形によって地面に到着するまでの時間や到着時の速さに違いがあるのが気になった。そこで、図7のように2本のレールを並べたすべり台の模型を自作し、2本のレール上の同じ高さからそれぞれ同じ小球をすべらせる実験をおこなった。あとの問いに答えなさい。



- ・レール①はレールの端(点 S_1)からXまでが直線で、XY間が水平になっている。
- ・レール②はレールの端(点 S_2)からXまでが曲線で、XY間が水平になっている。
- ・レール①とレール②の全長は同じで、床からレールの端(点 S_1 、点 S_2)までの高さも同じである。

- ・レール①とレール②のXY間には、それぞれ図8のような速さ測定器を置き、XY間での小球の速さを測定できるようになっている。

- ・小球は常にレールに沿ってすべり、途中でレールと離れることはない。

アンさんは小球をレール①の端(点 S_1)、レール②の端(点 S_2)に置いて同時に静かに手を離した。このときの小球の運動を説明した次のa~dのうち、正しいものはどれか。それを過不足なく示したものを、あとの1~8の中から一つ選び、その番号を答えなさい。ただし、摩擦や空気の抵抗などの影響は考えず、小球の力学的エネルギーは保存されるものとする。

- レール①の上を運動した場合もレール②の上を運動した場合も、XY間での速さは同じになる。
- レール①の上を運動した場合よりもレール②の上を運動した場合のほうが、XY間での速さが大きくなる。
- レール①の上を運動した場合もレール②の上を運動した場合も、手を離してからXの位置を通るまでの時間は同じになる。
- レール①の上を運動した場合よりもレール②の上を運動した場合のほうが、手を離してからXの位置を通るまでの時間が短くなる。

- aのみ
- bのみ
- cのみ
- dのみ
- aとc
- aとd
- bとc
- bとd

2. 東京都立高校入試について

(1) 推薦入試【入学定員の20%程度】

推薦入試の募集定員は、普通科20%、農業・商業・産業科40%、工業科50%、その他30%が上限である。また、小論文・作文・実技検査*のうち1つ以上の検査と面接をすべての学校で実施し、そこに調査書の点数を加えた「総合成績」の上位の受検者から合格になる。試験日は例年1月26日頃。推薦入試では志願変更ができない。

推薦入試の応募倍率は、以前は3倍を超えるところがほとんどだったが、近年は都心にあり人気がある高倍率の学校と低倍率の学校という二極化が目立つようになってきた。また、推薦入試はそもそも募集定員が少なく、小論文・作文*の対策も必要になるうえ、選考の約50%が調査書点で決まってしまう。そのため、一般入試でも余裕を持って合格できそうな調査書点を持っていないと、推薦入試での合格は厳しい。

※2024年度より新型コロナ対策として、集団討論は必要と判断した学校のみが実施する。

■ 推薦入試の選考一覧および応募倍率(2024年度)

高校名	募集定員割合	調査書配点	個人面接配点	小論文・作文・実技検査配点	満点	応募倍率
日比谷	20%	450点(50%)	200点(22%)	【小】250点(28%)	900点	2.55
西	20%	360点(40%)	240点(27%)	【作】300点(33%)	900点	2.95
国立	20%	450点(50%)	150点(17%)	【小】300点(33%)	900点	3.55
戸山	20%	450点(50%)	150点(17%)	【小】300点(33%)	900点	3.34
青山	20%	450点(43%)	100点(9%)	【小】500点(48%)	1050点	3.79
立川(普)	20%	500点(50%)	100点(10%)	【小】400点(40%)	1000点	2.95
八王子東	20%	500点(50%)	100点(10%)	【小】400点(40%)	1000点	2.27
新宿	10%	450点(50%)	180点(20%)	【小】270点(30%)	900点	7.66
国際	30%	500点(50%)	200点(20%)	【小】300点(30%)	1000点	3.67
駒場(普)	20%	360点(50%)	180点(25%)	【作】180点(25%)	720点	3.05
町田	20%	450点(50%)	150点(17%)	【小】300点(33%)	900点	2.48
多摩科学技術	30%	500点(50%)	300点(30%)	【実】200点(20%)	1000点	1.68
狛江	20%	600点(50%)	300点(28%)	【作】300点(22%)	1200点	2.92
神代	20%	450点(50%)	150点(17%)	【作】300点(33%)	900点	2.77
調布南	20%	500点(50%)	200点(20%)	【小】300点(30%)	1000点	2.19
成瀬	20%	500点(50%)	200点(20%)	【小】300点(30%)	1000点	1.75
芦花	20%	400点(50%)	200点(25%)	【作】200点(25%)	800点	3.25
松が谷(普)	20%	500点(50%)	300点(30%)	【作】200点(20%)	1000点	2.86
松が谷(外)	30%	500点(50%)	300点(30%)	【作】200点(20%)	1000点	2.25
日野	20%	600点(50%)	250点(21%)	【作】350点(29%)	1200点	4.33
小川	20%	500点(50%)	250点(25%)	【作】250点(25%)	1000点	3.09
片倉(普)	20%	450点(50%)	350点(39%)	【作】100点(11%)	900点	3.63
町田総合	30%	500点(50%)	300点(30%)	【作】200点(20%)	1000点	1.54
山崎	20%	500点(50%)	300点(30%)	【作】200点(20%)	1000点	1.63
野津田(普)	20%	300点(46%)	300点(46%)	【作】50点(8%)	650点	1.00

① 調査書について

調査書とはいわゆる成績表のことであり、9教科の5段階の評点の合計である45点満点を、各学校が満点とする点数に換算する。

② 小論文・作文・実技検査

2013年度より、推薦入試において、小論文、作文、実技検査のどれか1つ以上を実施することになった。2024年度入試においては、小論文が40校、作文が110校、実技検査が16校で実施された。複数の検査を実施するのは、駒場の保健体育科、科学技術と立川の創造理数科である。小論文は進学指導重点校などの難関校で実施されることが多く、実技検査の実施校は全て専門学科だった。

■ 推薦入試の小論文出題例(2023年度)

高校名	検査時間	問	内容	字数
日比谷	50分	小問1	ある鉄道会社の路線の中で、赤字額が大きい区間について赤字が続く理由を資料から読み取る。	200～240
		小問2	地方が抱えている問題について事例を一つ挙げ、問題になっている点を述べるとともに、解消方法について、具体的に述べる。	340～400
戸山	50分	小問1	資料を使って、東京都の人口増加率及び人口構成の特徴を、秋田県及び全国と比較しながら説明する。	150～180
		小問2	資料を使って、東京都内に位置する二つの地域の人口増加率及び人口構成の特徴と、そこから発生すると考えられる村落や都市の問題について、説明する。	150～160
		小問3	文章中の下線部を参考に、図表から読み取れることを、原子番号の大小の違いとその理由とともに、説明する。	150～200
新宿	50分	小問1	近年の日本を取り巻く電力供給体制、エネルギー及び環境の状況に関する7点の資料から2050年の「日本における発電電力量に占める各電源の割合」とその根拠を述べる。	451～500
		小問2	日本の1990年、2010年及び2019年の各年の最大電力発生日における、1日の電気の使われ方の推移を示したものと会話文から、どのようにダムが活用されているかを、エネルギー面に着目して考え、説明する。	151～200
		小問3	会話文を参考に運動エネルギーと安全に配慮したロケットの打ち上げに最適だと考えられる場所を、地球の陸地上から1か所選び、その根拠を述べる。	101～150

③ 面接

■自己PRカード

推薦入試では志願者全員が「自己PRカード」を提出する。ただし、一般入試では面接を実施する高校のみに提出する。「自己PRカード」は、2007年度から得点化が廃止されて面接の際の資料として活用されることとなった。内容は「志望理由・中学校生活の中で得たこと・高等学校卒業後の進路」の3項目となっている。

■面接内容

面接では、「志望理由」「中学校時代に頑張ったこと」「高校で力を入れたいこと」「高校卒業後の進路」など基本的なことを聞かれることが多い。事前に内容を練り込んで話す練習をしていけば問題ない。

④ 文化・スポーツ等特別推薦

2024年度は都立高校の89校で、通常の推薦入試の他に「文化・スポーツ等特別推薦」を実施した。「運動部に所属し全国レベルの大会で活躍した生徒」や、「文化活動・ボランティア活動などで目覚ましい実績を上げた生徒」などを対象に選考するが、どんな種目でも良いのではなく、各高校が求める種目の実力がないと合格はできない。また「入学後も同じ分野で活動続ける意思を持つ」ことが出願条件である。

■特別推薦実施例(2024年度)

種目	高校名	種目	高校名
硬式野球	目黒(男3)、広尾(男3) 千歳丘(男6)、松が谷(普)(男2) 富士森(男6)、日野(男6) 小川(男3)、片倉(普)(男6) 狛江(男3)、府中東(男5)など	サッカー	松が谷(普)(男2) 富士森(男4)、片倉(普)(男4) 狛江(男3)、若葉総合(女4) 府中東(男4)など
		合唱	千歳丘(男女3)など
バスケットボール	目黒(男3女3)、広尾(男3女3) 富士森(女3)、日野(男3女3) 若葉総合(男2)、府中東(女4)など	吹奏楽	富士森(男女5) 片倉(普)(男女6)など
バレーボール	日野(女3) 小川(男3女3) 府中東(女4)など	陸上競技	松が谷(普)(男女2) 片倉(普)(男女3) 若葉総合(男女4)など
バドミントン	町田総合(男3女3)など	アーチェリー	山崎(男女2)など
剣道	松が谷(普)(男2女2)など	ビジネス	千早(男女2)など

⑤ 理数等特別推薦

2024年度より科学技術と立川の創造理数科では、口頭試問による推薦入試を実施した。両校とも男女8名の定員枠を設けている。

(2) 一般入試(第一次募集)【入学定員の80%程度】

入学定員から推薦入試合格者数を引いた残りの60%~90%を選抜する。① 学力検査(入試得点)、② 調査書の評定(内申点)、③ 英語スピーキングテスト(ESAT-J)(20点満点)の3項目を1020点満点になるように換算した「総合得点」に、面接や実技検査などを行った場合はその結果(得点)も加えた「総合成績」で選考を行う。例年、出願締切りは2月6日で入試が2月21日頃である。なお、志願変更が1回可能である。

① 学力検査(入試得点)

学力検査は基本的に英語・数学・国語・理科・社会の5教科で実施する。ただし、実技検査を行う総合芸術・駒場(保健体育科)・野津田(体育科)・片倉(造形美術)の4校は、英語・数学・国語の3教科で実施する。配点は各教科100点満点だが、特定の教科に比重をかける傾斜配点を行う高校があり、国際(国際)・多摩科学技術など全8校である。さらに、上位校は英数国の3教科を中心に独自問題で学力検査を行う。なお、2016年度より、採点ミス防止のためマークシート方式が採用された。選考では、5教科もしくは3教科で実施した入試得点(各教科100点満点)を、700点満点に換算する。

■ 独自問題(自校作成問題)実施校(2024年度)

進学指導重点校の日比谷・西・国立・戸山・青山・立川・八王子東と進学重視型単位制高校の新宿・墨田川・国分寺の計10校は、英・数・国で独自問題を実施した。他に、国際は英語のみ独自問題である。

② 調査書の評定(内申点)

中3(2学期)の9教科45点満点の内申点(評定)を、学力検査実施教科が5教科ならば65点満点、3教科ならば75点満点の換算内申にする。さらにそれを300点満点に換算する。

■ 換算内申の求め方

学力検査の実施教科数	換算内申の求め方									
5教科 (英数国理社)	英	数	国	理	社	音	美	保体	技家	計
	5	5	5	5	5	5	5	5	5	45点満点
	↓	↓	↓	↓	↓	↓×2	↓×2	↓×2	↓×2	↓
	5	5	5	5	5	10	10	10	10	65点満点
3教科 (英数国)	英	数	国	理	社	音	美	保体	技家	計
	5	5	5	5	5	5	5	5	5	45点満点
	↓	↓	↓	↓×2	↓×2	↓×2	↓×2	↓×2	↓×2	↓
	5	5	5	10	10	10	10	10	10	75点満点

③ 英語スピーキングテスト(ESAT-J)

中学校における「話すこと」の指導を充実させ、高等学校での「使える英語力」のベースとするとともに、「話すこと」に関する評価を導入するために、2023年度入試からESAT-J(東京都中学校スピーキングテスト)が導入された。中学3年生全員が1回だけ受験をする。テストは東京都教育委員会が監修するが、運営は民間団体が行う。タブレット等の端末に解答音声を録音する形式で実施する。

■ テスト実施と結果発表(2024年度)

- ・実施日:2023年11月26日(日) 予備日:12月17日(日)
- ・結果発表:WEB 2024年1月11(木) 郵送1月22日(月)
- 予備日結果発表:WEB 2024年1月25日(木) 郵送1月30日(火)

■ 英語スピーキングテスト得点

評価は20点満点の6段階で、A:20点、B:16点、C:12点、D:8点、E:4点、F:0点となる。総合得点1020点満点中の20点と配点が少ないうえに、同じ高校を受験する生徒間では大差がつきにくいと考えられる。

④ 合格者の決定方法

2024年度入試より全ての高校で男女別定員制を廃止した。

■ 総合得点による選考

総合得点＝学力検査得点＋調査書得点＋英語スピーキングテスト(+面接・実技検査得点)
で計算する。

総合得点計算例(学力検査5教科実施の場合)

(例)Aくん

	英	数	国	理	社	音	美	保体	技家	計
入試得点	85	76	82	78	92	/	/	/	/	413
内申	5	4	4	5	4	3	5	3	3	36

(i) 入試得点を学力検査得点に換算する

$413(\text{入試得点}) \div 500(\text{入試満点}) \times 700(\text{学力検査得点満点}) = 578.2(\text{点})$
学力検査得点＝578点(小数点以下切り捨て)

(ii) 内申点から換算内申点を求め、調査書得点に換算する

換算内申＝(英数国理社の合計22)＋(音美体技の合計14)×2＝50(点)
 $50(\text{換算内申}) \div 65(\text{換算内申満点}) \times 300(\text{調査書得点満点}) = 230.8(\text{点})$
調査書得点＝230点(小数点以下切り捨て)

(iii) 英語スピーキングテスト(20点満点)を加える

英語スピーキングテスト結果:B＝16点

(iv) 総合得点を求める

$578(\text{学力検査得点}) + 230(\text{調査書得点}) + 16(\text{英語スピーキングテスト}) = 824(\text{点})$

(3) 第二次募集

一般入試(第一次募集)で入学手続きが募集定員に達しない時は、第二次募集を行う。学力検査は英語・数学・国語の3教科で実施され、学力検査得点と調査書得点の比率は、6:4である。

また、当初から一般入試の募集定員の一部を、この第二次募集の期間に募集する「前後期分割募集」を実施するところもある。

3. 国私立高校入試について

(1) 私立高校の入試制度

私立高校の入試制度は大きく4つに分類することができる。①推薦 ②専願(単願) ③併願 ④オープン入試(一般入試)である。

① 推薦

■ 一般的な推薦制度

一般的な推薦制度とは、内申点を利用して第一志望の私立高校に合格する方法である。12月15日頃に、中学校を通じて希望する私立高校へ入試相談を行う。その高校が定めた基準(内申点や欠席日数など)を満たしていれば出願が認められる。この時点で確約を得たことになるが、他の高校には出願できなくなる。ほとんどの高校が1月22日前後に面接や作文を実施して、人物に問題がないか確認が行われる。

■ 特殊な推薦制度

法政二・法政国際(旧・法政女子)は入試相談のみで合格の確約が出るため、面接や試験を実施しない。この形式を書類選考と呼ぶ。一方、他の難関校は入試相談によって推薦の出願を認めるだけで、その後に適性検査(主要3科か5科の学科試験)や小論文や厳しい面接などで合否を決定する。こうした高校は倍率も高いので、推薦入試で不合格だった場合に備えて他校受験の準備や計画が必要である。

◆ 独自の推薦制度を導入している高校例 ◆

高校名	試験内容	確約
法政二・法政国際(旧・法政女子)	書類選考後の出願時に作文提出	有
早大高等学院	ハイレベル面接(30分・面接官3人:生徒1人)	無
青山学院	作文(出願時)・適性検査(3科)・面接	無
日本女子大附	面接	無
中央大・明大八王子	適性検査(中大5科、明大八3科)・面接	無

■ 他校を受験できる推薦制度はなくなった

一部の私立高校では、推薦の定員枠で後述する併願入試を実施していた。しかし、2013年度に神奈川県や東京都の公立(都立)入試制度が変更されて以降、推薦入試に合格した後は他校を受験できなくなった。現状では、推薦入試は当該高校を第一志望としなければならない。

② 専願

専願は、「単願」と呼ばれることもある。第一志望を前提とした入試制度であり、その意味では推薦制度とほぼ同じ役割を持つ。確約をもらう時期も推薦と同じく12月15日頃の入試相談時である。内申基準は、推薦より専願のほうがやや緩やかになっていることが多い。そのため、推薦の内申基準に届かないときに、専願制度を利用する。

推薦と異なる点は、一般の受験者と同様に学科試験を受けることである。しかし、これは合否を決定するためではない。一般受験の定員枠で合格させ、入学後のクラスを決定するためである。学校によっては、学科試験の結果が優秀だった場合に特進クラスへのスライド合格を認める制度もある。

③ 併願

■ 一般的な併願の仕組み

併願は、俗に「すべり止め」とも呼ばれる。主に公立(都立)高校を第一志望とする生徒を対象にした制度である。各私立高校には、独自に定めた併願の内申基準がある。それを満たしていれば、中学校を通じて入試相談で合格の確約が提示される。一般の受験生と同様に学科試験を受ける必要はあるが、受験さえすれば合格するので、その後の公立(都立)高校受検にも安心して臨むことができる。ただし、公立(都立)高校が不合格になった場合は、併願制度を利用した私立高校に進学しなければならない。

■ 他の私立高校と併願できることもある

公立(都立)だけでなく、他の私立高校に対しても併願を認める私立高校が存在する。公立(都立)と私立高校の両方を一般受験する場合や私立高校が第一希望の時に、併願可能な私立高校を選ぶ必要がある。

◆私立高校と併願可能な高校例◆ 注:内申の詳細は各校のページを参照下さい。

内申の目安	高校名
5科 23 以上	中央大横浜・山手・青稜・桐蔭(プ)・都市大等々力・朋優・日本大(総進)
5科 21 前後	桜美林(進)・佼成(総)・駒澤・文教大付・目黒日大・東海大相模・麻布大附(進)
5科 18 以上	相模女子大(進)・横浜(アド)・目黒学院(アド)・保善(大選)

■ 「書類選考」という名称の併願制度もある

一部の私立高校では、内申基準のみで学科試験を課さない「書類選考」という併願制度がある。私立をオープン(一般)受験する場合に、併願校で受験日を拘束されないという利点がある。

◆学科試験を受けずに併願可能な高校例◆ 注:内申の詳細は各校のページを参照下さい。

高校名	詳細
中央大横浜・麻布大附・相模女子・英理女子	作文を提出。
藤嶺藤沢・鶴見大附・横浜商科大・横浜・横浜創学館・武相	エントリーシートなどを提出。
向上	特になし。

■ 確約のない併願制度もある

一部の私立上位高校では、内申基準の他に入試でも一定以上の得点を課す併願制度がある。その得点に満たなければ不合格となるので、事前に得点力を確認しておく必要がある。

◆併願で一定の入試得点を課す高校例◆

高校名	入試点数
朋優	3科合計 130 点以下は不合格。
八王子(総合)	併願基準を満たしていれば入試得点に 50 点を加点。

注:桜美林は 2019 年度より入試得点を課さなくなった。東京農業大学第一は 2025 年から募集停止。

④ オープン入試

オープン入試は「一般入試」と呼ばれることもある。オープン入試の定員枠は専願や併願とは別に設けられ、受験当日の点数のみで合否が決まる。内申点が低くても実力のある生徒にとっては、有利な制度といえる。ただし、難関校では中学の指導要領を越えて出題されることがあり、併願制度のない國學院などと比較すると、併願とオープンの枠が同じ中央大横浜などは合格者が少ない。また、2次募集を実施する高校もある。

◆オープン入試を実施する難関校の例◆

高校名	高校名
東京学芸大学附属(国立)	中央大学
お茶の水女子大附属(国立)	中央大学附属
東工大附属科学技術(国立)	桐光学園
慶應義塾	明治学院
慶應義塾女子	法政大学第二
早稲田実業	法政大学国際(旧・法政大学女子)
早稲田大学高等学院	日本女子大附属
青山学院	明治大学付属八王子

◆私立高校の入試カレンダー◆

12月

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
← 成績発表・三者面談												← 入試相談 (推薦・専願・併願)																		

1月

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
																	← 出願 (推薦)		← 入試(推薦) 合格発表翌日				←							

2月

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
← 出願 (専願・併願・オープン)								← 入試(専願・併願・オープン) 合格発表翌日																			

注：一般的な高校を例としています。高校によって時期が違います。

(2) 受験校を選ぶ際のポイント

① 内申基準について

私立高校を推薦・専願・併願などで受験する場合、各校で内申基準を設定している。正式発表はその年度の10月1日となっているが、説明会などで事前に公表することも多い。その表記は多種多様であるが、次のようなものが代表的である。

- ・神奈川県公立高校の入試に使用する内申点をそのまま使用する(135点満点)
- ・3年生の12月に出る内申点を基準にする(3科・5科・9科)
- ・2年生の学年末と3年生の12月に出る内申点を合算する(3科・5科・9科)

内申点に加え、以下のものも評価対象になるが、欠席日数を除き、多少の加点程度の場合がほとんどである。欠席日数に関しては、入院等特別な事情ではない限り、出願資格を失う。

- ・部活動の実績(一般的に県・都大会レベル以上が必要)
- ・検定(英検・漢検・数検などで3級以上。準2級以上が必要な場合も多い)
- ・生徒会役員・委員会などで「長」として活動した実績
- ・課外活動の実績(ボランティア・社会福祉活動など)
- ・中学3年間の欠席日数が〇〇日以内(学年ごとの場合もある)

② 公立(都立)高校のみの受検は避ける

公立(都立)高校のみを受検するのは、なるべく避けるべきである。緊張してしまったり体調が悪かったりして、全力が出せない場合があるからである。

加えて、併願校を受けずに公立(都立)高校のみを受検すると、必ず合格できそうな安全圏の高校を選ぶことになる。本来の学力よりもやや下の高校を受検しなければならないので、高校を選択する上でも不利であると言える。

さらに、万が一不合格になった場合は、二次募集を行っている高校を探すことになる。公立(都立)高校では必ずしも募集するとは限らず、本人の学力に合う私立高校が募集を行う保証もない。よって、公立(都立)高校が第一志望であっても、よほどの事情がない限りは併願校を受ける準備をするべきである。

③ 公立(都立)トップ校受検に私立一般受検も加える

公立(都立)トップ校を受検して不合格だった場合、進学先は私立の併願校となる。しかし、内申による確約がある併願校は、公立(都立)トップ校に比べて大学進学実績が落ちてしまうことが多い。将来の選択肢を有利にするためには、大学付属校や進学実績の良い私立も一般受検しておくことをお勧めする。

特に公立(都立)トップ校は合格者平均点が高得点化していて、公立(都立)高校のトップ・上位校では9割近い正解率が求められる。ミスをせずに解く力や出題傾向が変わっても得点できる応用力が必要である。また、都立で独自入試を実施する高校では、偏差値65前後の私立難関校に匹敵するレベルの問題が出題される。偏差値70前後の国私立難関校レベルの問題を解くことは、公立(都立)入試の問題を早く確実に解くことにも役立つ。

また、私立難関校にオープン入試で合格しておくことにより、万が一の際に併願校のレベルまで進学先を落とすリスクを避けられる。費用がかかる私立に通うことになるのであれば、より将来の選択肢が多い高校を選択すべきであろう。

いずれの場合にせよ、公立(都立)高校が第一志望でも私立を一般受験するメリットは十分にある。ただし、私立難関校の一般入試では、高校レベルの公式や熟語などが出題されることもあるので、受験の際には十分な対応が必要となる。

④ 3年間通いたいと思える高校を選ぶ

例年、夏休みから秋にかけて学校説明会・進路相談会等が集中して開催される。必ず複数の高校を見学した上で、最終的に2~3校に絞りこむ。その中で優先順位をつけ、12月に行われる中学校の三者面談の席上で担任に意志を伝える。「すべり止め」だからと言って、安易に選ぶのではなく、万が一の場合を考え、十分に調べて納得した上で選ぶべきである。

⑤ 共学校だけではなく、男子校・女子校も検討する

共学校は人気が高いが、共学だけに絞ってしまうと選択肢が狭まることが多い。共学校のみを検討するのではなく、男子校や女子校にも候補を広げ、通学可能な地域の高校は可能な限り見学に行ってもらいたい。実際に見学してみると、「想像以上に良かった」と、志望校を変更する場合も多い。例えば、日本女子大附などは大学の附属校であるため、大学受験を意識せずのびのびと高校生活をおくることができるメリットもある。「男子校(女子校)だから…」という理由だけで進学先の候補から外してしまうのはもったいない。

⑥ 入学手続き費用の「延納」「返還」制度を上手に利用する

ここまで述べた通り、公立(都立)高校を第一志望にしている生徒のほとんどは、併願として私立高校を受験する。しかし、合格発表日は私立高校のほうが早いので、先に入学金を支払うと公立(都立)へ合格した時に経済的負担が大きい。

そこで、私立高校の中には、公立(都立)の合格発表日以降に手続き日を設定したり、発表日まで費用の延納を認めたり、一部を返還したりするところがある。この制度を上手く活用することにより、経済的にムダのない高校入試が可能になる。

◆手続きが公立(都立)合格発表日以降の高校例◆

■ 神奈川県

英理女子学院(旧・高木学園女子)・柏木学園・鶴沼・向上・光明学園相模原・相模女子大・捜真女学校・橘学苑・鶴見大附・藤嶺学園藤沢・白鵬女子・藤沢翔陵・武相・緑ヶ丘女子・横浜・横浜学園・横浜商科大・横浜翠陵・横浜清風・横浜創学館など

■ 東京都

共立女子第二・国本女子・京華・佼成学園・佼成学園女子・駒場学園(普)・品川翔英・自由ヶ丘学園・松蔭大附松蔭・正則・玉川学園・帝京大・東京家政学院・東京実業・東京都市大等々力・トキワ学園・日本工業大駒場・八王子実践・羽田国際・富士見丘・保善・目黒学院など

◆届出をすれば延納できる高校例◆

<p>■ 神奈川県 大西学園・法政大学国際(旧・法政大女子)・法政大学第二・横浜隼人など</p> <p>■ 東京都 関東国際・工学院大附・国士舘・駒沢学園女子・駒澤大・品川エトワール女子・下北沢成徳・正則学園・青稜・専修大附・多摩大目黒・東京・日本体育大荏原・フェリシア(旧・鶴川)・文教大付・明治学院(一般②)・目黒日本大学・八雲学園・和光など</p>

◆手続き費用の一部だけを納入する高校例◆

■ 神奈川県	高校名
5万円以内	麻布大附(5万円)・桐蔭学園(5万円)など
10万円以内	東海大相模(6万円)・桐光学園(10万円)・日本大(10万円)など
15万円以上	鎌倉学園(15万円)・日本女子大附(25万円)・日大藤沢(15万円)・山手学院(20万円)など

■ 東京都	高校名
5万円以内	桜美林(3万円)・東海大高輪台(5万円)・日大櫻丘(3万円)・日大三(B志願5万円)・日大鶴ヶ丘(特進・総進3万円)・朋優(3万円)など
10万円以内	國學院(7万円)など
15万円以上	青山学院(32万円)・中央大(30万円)・明大明治(30万円)・早大高等学院(26万円)など

◆納入した費用を一部返還する高校例◆

注:返金される金額(返金されない金額)で記載	
■ 神奈川県	慶應義塾 60.1万円(34万円)
■ 東京都	慶應女子 56.3万円(34万円)・早稲田実業 12.6万円(30万円)・早高院 47.8万円(26万円)

⑦ 私立高校の学費補助を利用する

私立高校へ進学した場合、国からは「高等学校等就学支援金」が支給される。さらに、神奈川県では「学費補助金」と「入学金補助」、東京都では「授業料軽減助成金」が支給される。これらの支給額は「県(都)民税・市町村民税の所得割額」の合算額で異なる。なお、申請は進学した私立高校経由で4月から6月にかけて行われるので、支給までに各家庭が立て替えることになる。

ここで注意したいのは神奈川県の学費補助である。この制度は神奈川県の私立高校に通学する場合のみ適用される。東京などの私立高校に進学した場合、支給されるのは国の学費補助だけとなる。これに対して、東京都の学費補助は他県の私立高校にも適用される。なお、これらの補助金は2024年度から一部が変更される。

◆神奈川県の場合◆ 年収が700万円未満か子ども3人以上の多子家庭だと補助が多い

年収目安	国の補助金	神奈川県の補助金		合計
	高校等就学支援金	学費補助金	入学金補助	
非課税世帯	39.6万円	7.2万円	21.1万円	67.9万円
590万円未満	39.6万円	7.2万円	10万円	56.8万円
700万円未満	11.88万円	34.92万円	10万円	56.8万円
750万円未満	11.88万円	7.44万円	10万円	29.32万円
多子世帯	11.88万円	34.92万円	10万円	56.8万円
910万円以上	11.88万円	なし	なし	11.88万円
多子家庭	11.88万円	34.92万円	なし	46.8万円

注：生活保護を受給しているか非課税の家庭には、授業料以外の負担を軽減する県の補助「神奈川県高校生等奨学給付金」(年間52,100円～152,000円)がある。県外の私立高校にも利用できるが、その場合のみ申請者自身が手続きを行う。

注：多子世帯とは、中学生を除く15歳以上23歳未満の扶養している子どもが3人以上いる世帯。

◆東京都の場合◆ 年収910万円以上にも同額の補助

年収目安	国の補助金	東京都の補助金	合計
	高校等就学支援金	授業料軽減助成金	
590万円未満 多子740万円未満	39.6万円	8.8万円	48.4万円
910万円未満 多子1090万円未満	11.88万円	36.52万円	48.4万円
910万円以上 多子1090万円以上	なし	48.4万円	48.4万円

注：生活保護世帯や非課税世帯には、授業料以外にかかる費用も助成する「私立高等学校等奨学給付金の制度がある。